

日 時：令和元年（2019年）10月2日（水）15時00分～17時00分

場 所：消防局庁舎第2・第3会議室

○横須賀市の観光概要について

- ・ 観光消費の伸びが弱いと感じる。イベントを実施する際の依頼も一部の事業者にとどまっているため、中小の事業者が参加でき、行政と連携できる仕組みづくりが必要である。特に横須賀は、民間事業者が自主的に立ち上げていく土壌があまりないため、その部分を行政や商工会議所が行うことが課題である。
- ・ 資料にある猿島の活用やeスポーツの取り組みなどを見て、多岐にわたって行政を中心に事業を掲げており、非常に前向きに仕掛けていると感じた。従来の観光施設、観光資源だけに頼らず、新しいイベントで横須賀を体験できるような取り組みを進めており、非常に素晴らしいと思う。新しいことを行っているので、ホームページなどでその実績を掲載しても良いのではないか。
- ・ 横須賀の観光客層の6～7割が男性で、3～4割が女性という結果であるため、最低でも男女比をともに5割までにしないと、観光地としては成り立たないと思う。そのため、ファミリー層や女性が興味あるもの、話題性があるイベントを行うことが大切である。
- ・ 横須賀への観光客は男性が多いが、逆に女性に関しては伸びしろが多いと考えている。現在も、女性にターゲットを絞ったプロモーションを関係事業者と協同しながら行っているが、今後も引き続き進めて欲しい。
- ・ ソレイユの丘や軍港めぐり、猿島など、いくつかのコンテンツがあるが単発的な打ち出しが多い。例えば軍港巡りの船を活用して、横須賀美術館、海から見る観音埼灯台や浦賀方面、久里浜へ向かうような周遊ルートを考え、このルートを回った後には市内で宿泊をしてもらうなど、コンテンツをつなげるようなことを考えないといけない。

- ・ 浦賀、久里浜地域はペリーが来航して上陸した地で、日本人ならみんな知っている場所であり、非常に魅力的なコンテンツである。これまで整備がされていなかったため、今後拠点づくりを進める必要がある。
- ・ 横須賀市は色々な取り組みに挑戦しており、非常に動きの良い自治体であると思っている。久里浜のマリノスタウンなども、新たな起爆剤としての取り組みになると思っている。
- ・ ルートミュージアム構想の市内に点在する近代化遺産などへの周遊での交通手段については、車や観光バスなどで来訪する観光客もあると思うが、鉄道から横須賀に来訪した観光客の二次交通（バス、レンタカー、自転車など）の検討についても進めてもらいたい。
- ・ 最近の観光客の動向として、個人客の比率が増えて団体客の割合が少なくなっているとともに、車での来訪が多くなっているように思う。
車で来る観光客について、どこに車を停めて買い物をしてもらい、周遊してもらおうのかを、ここ数年間で考えていかないといけないと思う。
- ・ 行政が取り組んでいる施策は、非常に的確に行っていると思うが、市民の中で観光産業によって事業を行い、稼ごうという熱気が少ないと感じている。観光振興の主体が行政だけではなく、企画の段階から熱意のある人たちのアイデアを入れていく仕組みを作り、みんなで観光産業により事業を行うことにより、お金を稼いでいく方法や体制を作る必要があると感じる。
- ・ 行政は、大規模イベントの企画を持ってくるなど、行政でないとできない部分を主に行い、その後は街の人たちが工夫を行いながら、観光でお金を稼ぐことができれば、本当の観光立市の姿になっていくと思うが、なかなか難しい。自分の住んでいる街で観光業により商売をするという意欲を持った人たちが現れることが一番大切なことであるが、まだそこまで達していないのではと感じる。
- ・ 他都市では行政があまり表に出ずに、裏側からサポートしている例もある。また、内発的に進めていくと限界があるので、外部からノウハウを持った人や事業者が来ることにより、外からの刺激を受けて一緒に行っていくことが大切である。

- インバウンドに関しては、横須賀はアメリカ人との関係では長い歴史があるが、それ以外の国では後発である状況だと思う。国のターゲットを絞ったプロモーションを実施したり、言語対応を行うことが重要である。
- 横須賀は海洋都市を目指して取り組んでおり、海に関する事業をトライアルという形でも良いので取り組むことが大切である。
また、海洋都市とイメージのほかにも、都市に近い緑農都市のイメージもある。インバウンドと農業体験を組み合わせた農泊みたいな切り口を行っても面白いのではないかと思う。
- 西地区のアピールが弱いため、中央地域を中心とした東地区と連携しながら、西地区のコンテンツを打ち出していくことにより、新しい客層を取り込むことができるのではないか。東地区と違う魅力がある西地区をどう活用するかが非常に大事なポイントである。
- 消費額を増やしていくという点から、これまであまり観点に入らなかったラグジュアリーなコンテンツなどがあると、観光の幅が広がって良い。観音崎京急ホテルにもグランピングの施設があって、長期間で宿泊している需要がある。新鮮な農作物がある西地区は、食の分野で特にその素地があると思う。
- 夜のアートイベントなど、横須賀の夜を楽しむイベントを行っているが、これからも、市内に泊まってもらい、飲食をしてもらうことにより、消費につなげていってほしい。